

《担当者名》教授/越智 守生 ochident@ 教授/舞田 健夫 tmaida@ 教授/疋田 一洋 hikita@
准教授/広瀬 由紀人 yukito@ 講師/仲西 康裕 nakanisi@
非常勤講師/白井 伸一 非常勤講師/柳 智哉

【概要】

歯科補綴学（前期：1～15回）

歯科補綴学概説、意義、クラウン・ブリッジ補綴学の定義、分類、具備要件、生物学的要件、審美性に関する要件、歯科補綴材料の選択。臨床編として前準備（検査、補綴前処置、診療計画と設計）、臨床処置などについて、その体系の概要を把握するとともに補綴学用語についての知識を集積・習得する。

橋義歯補綴学（後期：16～30回）

ブリッジとは、1歯ないし数歯が欠損している場合に、残存歯の歯冠又は歯根に結合して維持を求めるとともに義歯に加わる機能圧を全面的に残存歯で支持するよう設計、製作された補綴装置を言う。すなわち、欠如部に隣接する歯及びそれに続く歯に結合し、橋梁の理論によって欠損歯の歯冠形態、機能及び外観を回復し改善する補綴物である。ここでは、ブリッジの理論と実際を習得する。さらに、口腔顎系が咀嚼、発音、嚥下等の仕事を行うとき、下顎はそれぞれ目的に合った位置を示し、また、運動を行っている。下顎の基本的な位置と運動の様子など顎咬合機能を理解する。

【学修目標】

歯科補綴学（前期：1～15回）

1. 歯科補綴学の定義と意義を説明する。
2. 歯科補綴治療と健康科学とのかかわりを説明する。
3. クラウンブリッジ治療の利点と欠点を説明する。
4. 種々の下顎位、下顎運動範囲および基本的な下顎運動について説明する。
5. 医療面接と診療の意義と内容を説明する。
6. 各種検査の意義と内容を説明する。
7. 顎機能・咬合ならびに支台歯の評価・臨床診断について説明する。
9. クラウンの種類を挙げ、それぞれのクラウンの特徴と適応症を説明する。
10. クラウンブリッジの要件を挙げ、各要件について説明する。
11. クラウンブリッジ治療に先立ち実施する前処置の意義を理解し、前処置の種類を挙げ、その内容を説明する。
12. 支台歯形成の目的と原則を説明する。
13. 歯頸部辺縁形態の分類と適応を列挙できる。
14. 歯質・歯髄・歯周組織への配慮を説明する。
15. 全部被覆冠の支台歯形成の手順を説明する。
16. 部分被覆冠の支台歯形成の注意点を説明する。
17. 支台築造の臨床的意義を説明する。
18. 支台築造の種類と方法、その選択基準を説明する。
19. 築造窩洞形成の原則と手順を説明する。
20. 印象材と印象用器材の種類と特徴について説明する。
21. 歯肉圧排の目的と方法について説明する。
22. 印象法の種類と特徴について説明する。
23. プロビジョナルレストレーションの臨床的意義を説明する。
24. プロビジョナルレストレーションの種類と製法を説明する。
25. 仮着材の種類と特徴を説明する。
26. 顎間関係の記録の意義を説明する。
27. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明する。
28. 作業用模型の構成と要件を説明する。
29. 作業用模型の種類と特徴を説明する。
30. 咬合器を分類し、それぞれの咬合器の特徴を説明する。
31. ワックスパターン形成の種類と注意事項を説明し、行う。
32. 埋没材の種類と使用法ならびに埋没法を説明する。
33. 鋳造法の種類と方法を説明する。
34. 金属の熱処理について説明する。
35. 金属の研磨について説明する。
36. 歯科補綴装置を試適する前の点検項目を列挙する。
37. クラウン試適時の調整手順を説明する。
38. 歯科補綴装置の仮着の必要性について説明する。
39. 歯科用セメントの種類を列挙し、各種歯科用セメントの特徴を説明する。
40. 接着性レジンセメントを使用した接着技法および接着機構について説明する。
41. 術後管理の重要性を説明する。
42. リコール方法における検査項目を説明する。
43. レジン前装冠の利点、欠点および適応症について説明する。
44. 前装材と金属の維持、結合方法について説明する。
45. 前装部の製作について手順を説明する。
46. ハイブリッド型コンポジットレジンの利点、欠点を説明する。
47. ジャケットクラウンの製法を説明する。
48. ジャケットクラウンの支台歯への装着法を説明する。
49. 陶材焼付冠の適応症を述べる。
50. 陶材と金属の結合機序について説明する。
51. メタルコーピングの形態を説明する。
52. 陶材焼付冠の製法を説明する。
53. オールセラミック修復の臨床的意義を説明する。
54. オールセラミック修復の適応症と禁忌症を説明する。
55. オールセラミック修復の代表的なシステムの特徴と製法を説明する。

橋義歯補綴学（後期：16～30回）

1. ブリッジの臨床的意義を説明する。
2. ブリッジの適応症を説明する。
3. ブリッジの種類を説明する。
4. ブリッジの構成要素について説明する。
5. ブリッジの設計における支台歯の選択基準を説明する。
6. ブリッジの支台装置の種類を説明する。
7. 前歯ならびに臼歯接着ブリッジの基本デザインを図示する。
8. 接着ブリッジの利点を列挙する。
9. 接着ブリッジの適応症を説明する。
10. 接着ブリッジ装着時の金属ならびに歯質被着面処理を説明する。
11. ポンティックの種類と選択基準を説明する。
12. ブリッジの支台装置とポンティックの材料を説明する。
13. ブリッジの連結法と特徴を説明する。
14. 固定性連結、半固定性連結、可撤性連結について説明する。
15. 固定性連結法の種類を列挙できる。
16. ろう付け法について説明する。
17. フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明する。
18. パントグラフによる下顎運動の記録法を説明する。
19. FGPテクニックの特徴と適応症を説明する。
20. 半調節性咬合器の調節方法を説明する。
21. 口腔内情報を記録する意義を説明する。
22. 色の選択と伝達方法を説明する。
23. CAD/CAMによる補綴装置製作の臨床的意義を説明する。
24. 代表的なCAD/CAMシステムの特徴と製法を説明する。
25. CAD/CAM用ブロックの種類と性質を説明する。
26. CAD/CAMクラウン製作時の各ステップにおける注意点を説明する。
27. 感染予防の基本的な考え方と補綴歯科治療における対策を説明する。
28. インフォームドコンセントの基本的な考え方を説明する。
29. インフォームドコンセントの成立要件を説明する。
30. ブリッジの失敗の原因をあげることができる。
31. 治療計画を左右する因子をあげることができる。
32. 歯周病の種類、症状、治療について説明する。
33. 咬合・咀嚼障害の病因と病態について説明する。
34. 咬合・咀嚼障害の症状と徴候について説明する。
35. ブリッジの生存率がどれくらいであるかを説明する。
36. 口腔インプラントの生存率がどれくらいであるかを説明する。
37. 口腔インプラント治療の意義と特徴

を説明する。38. 口腔インプラント材料と組織について説明する。39. 口腔インプラントの基本構造を説明する。40. 口腔インプラントによる治療術式を説明する。41. 口腔インプラントの上部構造の種類について説明する。42. 口腔インプラント補綴装置の選択基準について説明する。43. 口腔インプラントの術後管理について説明する。44. 補綴装置装着後に発生する問題を説明する。45. 補綴装置装着後に発生した問題の原因を推測する。46. 補綴装置装着後に発生した問題の解決方法を挙げる。47. 高齢者・要介護者における補綴治療について理解する。48. POS (問題解決思考システム) について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	<p>総論</p> <p>1. 歯科補綴学の意義</p> <p>2. クラウン・ブリッジ補綴学の定義</p> <p>3. クラウン・ブリッジ補綴学の具備要件</p> <p>4. クラウンの種類</p> <p>5. ブリッジの種類</p>	<p>クラウン・ブリッジ補綴学の定義、さらに、歯科補綴学の歴史や分類等について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」</p> <p>P.1-P.7、P.60-P.83</p> <p>E-3-4)-(1)-、E-3-4)-(2)-</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>
2	<p>臨床概説</p> <p>1. 検査及び診断</p> <p>2. 治療計画</p> <p>3. インフォームドコンセント</p> <p>4. 補綴前処置</p>	<p>適切な検査、診断は補綴物が口腔内において長期間にわたりその意義を失わずに存在する鍵である。一般的及び全身の検査事項、検査方法、治療計画及び補綴処置にかかる環境を整えるための補綴前処置について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」</p> <p>P.38-P.64、P.99-P.111</p> <p>E-3-4)-(1)-、E-3-4)-(2)-</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>
3	<p>4. 支台歯形成</p> <p>5. プロビジョナルレストレーション</p>	<p>支台歯形成において、切削と歯質との関係、切削と歯髄との関係、切削時の注意事項、形成前準備、支台歯形態の要件。さらに、テンポラリークラウンブリッジの臨床的意義について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」</p> <p>P.112-P.123、P.145-P.150</p> <p>E-3-4)-(1)-</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>
4	<p>6. 印象採得</p> <p>A. 間接法の概説</p> <p>B. 歯肉圧排</p> <p>C. 印象材の種類・所要性質</p> <p>D. 使用器具</p> <p>E. 印象法</p> <p>7. 作業用模型</p> <p>A. 構成と要件</p> <p>B. 模型材の種類と取扱い法</p> <p>C. 歯型の修正</p> <p>D. 関連器具</p> <p>E. 作業用模型の種類</p>	<p>間接法とは、印象採得によって得られた作業用模型上でクラウンやブリッジを製作する方法である。支台歯の精密印象について、印象材の種類・所要性質、器具及び印象法について、理解する。また、間接法は、支台歯の印象採得後、模型上ですべての技工操作を完了させる方法で、適合性に優れたクラウンと合理的な歯冠形態のクラウンを、比較的容易に製作できるなどの利点がある。この作業用模型について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」</p> <p>P.133-P.144、P.173-P.180</p> <p>E-3-4)-(1)-</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>
5	<p>8. 咬合器付着</p> <p>A. 咬合関係の決定</p> <p>B. 下顎運動の記録</p> <p>C. 顔弓による記録</p>	<p>咬合採得を行い、顎間関係の記録をする。下顎位、下顎運動の記録を行い、顎関節に対する上顎の位置的关系を顔弓によって決定し、生体と同じ開閉軸になるように上顎模型を咬合器上に位置づける。ここでは咬合関係決定のための顎間関係の記録方法、下顎運動の記録方法及び顔弓の使用方法を理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.6-P.11</p> <p>P.151-P.161、P.180-P.187</p> <p>E-3-4)-(1)-、E-3-4)-(2)-</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>
6	<p>9. 製作法</p> <p>A. 金属の加工</p> <p>B. 陶材の加工</p>	<p>鑄造冠の製作、陶材の組成と種類、ポーセレン歯冠修復物の作製。硬質レジンの重合及び形態修正、研磨。そして、咬合器上で調整した補綴物の適合状態、</p>	<p>越智 守生</p> <p>広瀬 由紀人</p> <p>仲西 康裕</p>

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	C. レジンの加工 10. 試適、仮着、装着 A. 試適 B. 仮着 C. 装着 11. 術後管理 A. メインテナンス B. リコール	隣接面の接触関係、咬合関係、審美性などの確認。補綴物を装着する前に一定期間の仮着により、咬合状態、発音、自浄作用などのチェックを行う。また、補綴物の耐久性の問題、生体との調和などについて理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.83、P.199-P.211、P.237-P.244 E-3-4)-(1)- , , ,	
7	歯冠補綴学中間試験	1～6回までの講義内容について試験を行う。試験時間は70分、100点満点で実施する。	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
8	概説 1. クラウンの臨床的意義 A. 目的 B. 特徴 C. 長所 D. 短所 2. クラウンの適応症 全部鑄造冠 1. 臨床的意義 2. 目的と適応症 3. 製作順序	クラウンの目的と特徴、クラウンと咬合、クラウンの長所、短所、クラウンの適応症について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.2-P.3、P.66 E-3-4)-(1)- , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
9	4. 支台歯の形態と形成法 5. 印象採得 6. 咬合採得 7. 暫間保護処置 A. テンポラリークラウンの目的 B. 種類と作製法 C. 仮着材による仮着 8. 作業用模型 A. 種類 B. 作製法 9. 蝓型形成 A. 形成法の種類と特徴 B. 形成の実際	支台歯形態について学ぶ。また、支台歯形成時の注意事項、支台築造法の種類、印象採得について、理解する。 咬頭嵌合位の安定した歯列における歯又は少数歯の歯冠補綴において、支台歯が歯列の中間にある場合、遊離端となる場合、咬頭嵌合位が不安定な歯列における1歯又は少数歯の歯冠補綴などの場合の咬合採得について学ぶ。そして、形成歯の暫間保護及び仮着。作業用模型の種類と作製法。さらに、蝓型形成について理解をしておく。 「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.112-P.115、P.141-P.143、P.151-P.152、P.188-P.198 E-3-4)-(1)- , , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
10	10. 埋没・鑄造 A. スブルーイング B. 埋没操作 C. 鑄造操作 D. 鑄造体の酸処理 E. 適合と調整 11. クラウンの試適、仮着、合着 A. 隣接接触関係の検査 B. 適合状態の検査 C. 理想的な頬舌面形態 D. 咬合関係の検査 E. 研磨 F. 仮着 G. 合着	蝓型形成から鑄造までの過程を理解する。 クラウンの口腔内試適時、適合状態の検査、コンタクトの調整法、咬合調整から合着までを理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.199-P.211、P.219-P.236 E-3-4)-(1)- ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
11	前装鑄造冠 1. 臨床的意義 2. 適応症と禁忌症 3. 陶材焼付鑄造冠 A. 金属と陶材の焼付機構	前歯部又は外観にふれる臼歯部で鑄造冠の唇側、頬側に審美性の回復を目的として、陶材又はレジンの前装して審美、機能の両面を考慮して作製した補綴物を前装鑄造冠という。臨床的意義、適応症と禁忌症、陶材焼付前装冠の焼付機構などについて理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.67-P.69	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	B. 施術順序 C. 陶材焼付合金の性質 D. 陶材焼付鑄造冠の構造 E. 色調選択 F. 天然歯の色調 G. 支台歯の形態と形成法 H. メタルフレームの設計基準 I. 陶材と合金の溶着温度 J. ポーセレンの焼成 K. 咬合調整及び合着・接着 4. 硬質レジン前装鑄造冠 A. 硬質レジンの歴史と種類 B. 特徴と製作法 硬質レジンジャケットクラウン 1. ポーセレンジャケットクラウンとの比較 2. 製作法	E-3-4)-(1)- , , , 陶材焼付鑄造冠の診療及び技工ステップ。合金の組成及び物理的性質、合金の種類。陶材焼付鑄造冠の構造、色調の選択などについて学習をし、歯種と性別との関連性についても習得する。さらに、支台歯形成、メタルフレームの設計基準、陶材と合金の焼付機構、陶材の築盛、焼成、咬合調整及び合着までを理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.270-P.281 E-3-4)-(1)- , , , 前装用硬質レジンの歴史と硬質レジンの種類を理解しておく。硬質レジン前装鑄造冠の主な特徴と維持装置の付与、硬質レジンの盛り上げ法と重合、さらに、形態修正後の研磨と口腔内試適装着までを理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.255-P.262 硬質レジンジャケットクラウンは硬質レジンを用いて充実性に作られた全部被覆冠をいう。適応症、施術順序、支台歯形成方法について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.70、P.263-P.269 E-3-4)-(1)- , , ,	
12	歯冠補綴学中間追再試験	歯冠補綴学中間試験未受験ならびに不合格者に対して追・再試験を行う。試験時間は70分、100点満点で実施する。	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
13	オールセラミック修復 1. 臨床的意義 2. 適応症、禁忌症 3. オールセラミック修復の種類 A. 耐火模型を用いるシステム 1) In-Ceram® B. ロストワックス法を用いるシステム 1) キャスタブルセラミックス 2) 加熱加圧成型 C. 機械切削を用いるシステム 1) ならい加工 2) CAD/CAM 4. ラミネートベニア	オールセラミック修復で歯冠全体を被覆するクラウン材料がセラミックと陶材によるものをオールセラミッククラウンという。陶材焼付冠のような金属の裏打ちがないため、光の透過や反射が自由で、現在の全部被覆冠のうち最も審美性に優れた支台装置である。臨床的意義、適応症、禁忌症、種類と製作方法、支台歯形成方法等について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.282-P.291 E-3-4)-(1)- , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
14	一部鑄造冠 1. 3/4クラウン 2. 4/5クラウン 3. 7/8クラウン 4. ピンレッジ 5. プロキシマルハーフクラウン 6. アンレー	歯冠部に生じた一部分の歯質欠損に対して部分的に被覆するクラウンの適応や支台歯形成について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.70-P.74、P.118-P.123 E-3-4)-(1)- , , , ,	舞田 健夫
15	歯冠継続歯 1. 臨床的意義 2. 製作順序 支台築造 1. 臨床的意義 2. 支台築造の目的 3. 支台築造の種類 4. 成形材料による支台築造 5. 既製ポスト利用法 6. 鑄造体による支台築造	歯冠継続歯（ポストクラウン）はポスト（合釘）及び根面板を備えた歯冠補綴物で、根管形成した歯根にセメントで合着されるものである。臨床的意義、支台歯形成、印象採得と作業用模型の製作、技工操作、全部レジン冠継続歯、レジン前装継続歯、口腔内試適、合着までを理解しておく。さらに、歯冠の崩壊の激しい歯を補強し、上部構造物を装着できるよう歯冠形態を回復することを支台築造という。 支台築造の目的、種類等について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.75 E-3-4)-(1)- , , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
16	<p>概説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブリッジの臨床的意義 2. 適応条件 3. 構造と種類 4. 検査と設計 <ol style="list-style-type: none"> A. 一般的検査 B. 局所的検査 C. 設計 	<p>ブリッジとは、欠損部に隣接する歯及び必要であれば次の歯にも連結して、橋梁の理論によって欠如部分の歯の外観を含めた歯冠形態を回復し改善を図ることである。本項では、ブリッジの臨床的意義と目的、適応条件、構造と種類、支台装置、検査と設計等について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.76-P.94 E-3-4)-(1)- , , ,</p>	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
17	<p>固定性ブリッジ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特徴 2. 製作法 3. 術後管理 <ol style="list-style-type: none"> A. メンテナンス B. リコール C. ブリッジの予後 D. まとめ 	<p>固定性ブリッジは通常、欠損部の両側支台歯が支台装置とポンティックにより連結された補綴物であり、セメントにより両支台歯に完全に固着されるものである。そこで、利点・欠点、固定性ブリッジとパースナルデンチャーの比較及び製作法、咬合採得時の咬合関係の決定、下顎運動の記録までを理解する。さらに、固定性ブリッジのメンテナンス及びリコール、ブリッジ予後不良の原因などについて理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.76-P.94、P.237-P.244、P.292-P.298 E-3-4)-(1)- , , ,</p>	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
18	<p>咬合・歯周組織の正常像と咬合・咀嚼障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 咬合の原則 2. 歯周組織と歯周病 3. 咬合・咀嚼障害の病因と病態 	<p>咬合・歯周組織の正常像と咬合・咀嚼障害について、更に詳しく学ぶ。すなわち、下顎位、基本的な下顎運動について説明できる。咬合・咀嚼障害の病因と病態及び症状と徴候について説明できる。生物学的幅径、付着歯肉及び歯周病の治癒基準について説明できる。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.18-P.37 E-3-4)-(1)- 、E-3-4)-(2)- 、E-3-3)-(3)-</p>	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
19	<p>咬合関連の臨床術式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーラルリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> A. 意義 <ol style="list-style-type: none"> a. 咬合 b. 咬合器 B. 術式 <ol style="list-style-type: none"> a. 咬合の機能診断 C. 顎運動の記録 <ol style="list-style-type: none"> a. チューイン法 b. パントグラフ描記法 c. チェックバイト法 	<p>オーラルリハビリテーションとは、歯の形態と機能を顎口腔系の一部として回復させるため、歯列の全範囲にわたり補綴、修復することである。咬合を左右するのは、咬合様式と咬合接触関係、中心位と咬頭嵌合位、咬合干渉と早期接触、垂直顎間距離、前歯部の垂直被蓋と水平被蓋などがあることを理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.20-P.26 E-3-4)-(1)- , , , 、E-3-4)-(2)-</p> <p>クラウンブリッジを製作するためには下顎の運動要素を、咬合器に再現させる必要がある。その運動路の記録には口腔外で記録する方法と、口腔内で記録する方法とがある。それらについて理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.155-P.161 E-3-4)-(2)-</p>	広瀬 由紀人
20	<p>ポンティック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要 2. 要件 <ol style="list-style-type: none"> A. 生物学的要件 B. 機能的要件 C. 力学的要件 D. 審美的要件 E. 感覚的要件 3. 構成 <ol style="list-style-type: none"> A. レジン前装ポンティック B. 金属ポンティック C. 陶歯応用ポンティック 	<p>ポンティックは橋体、架工歯などとも呼ばれ、ブリッジを構成する要素の一部であり、支台装置と連結されることによって歯の欠損部を補い、咀嚼や発音といった口腔の機能及び形態、審美性などを回復する役割をもっている。そこで、ポンティックの概要、各要件等について理解する。</p> <p>「クラウン・ブリッジ補綴学」P.60-P.64</p> <p>ブリッジのポンティックは、通常は支台装置と同じ材料、構造からなっている。すなわち、金属単体でできているもの、外観に触れる前装部分にレジン又は陶材といった歯冠色の材料を使用し、咬合面や舌側を金属で回復するものなどがある。</p>	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	D．陶材溶着ボンティック E．陶材ボンティック 4．基底面形態の種類と特徴 A．鞍状型 B．偏側型 C．リッジラップ型 D．船底型 E．離底型 F．有床型 G．オベイト型	「クラウン・ブリッジ補綴学」P.82-P.83 E-3-4)-(1)- , , ボンティック基底面形態の種類と特徴について、AからGまでの形態の特徴と利点と欠点などについて理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.89-P.91 E-3-4)-(1)-	
21	連結法 1．固定性連結法の種類 A．鑲付け法 B．ワンピースキャスト法 2．連結部の要件 3．特徴 半固定性ブリッジ 1．概要 A．適応症 B．禁忌症 2．臨床的意義 3．キーアンドキーウェイ 4．製作法 可撤性ブリッジ 1．概要 2．適応症 3．禁忌症 4．臨床的意義 5．アタッチメントについて	支台装置とボンティックを作製後、両者を連結してブリッジを完成させるが、固定性連結法には鑲付け法とワンピースキャスト法がある。連結部の要件及び特徴と鑲の所要性質、さらに、陶材焼付金属ブリッジの鑲付け法における前鑲付け法、後鑲付け法について、理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」 P.92-P.93、P.293-P.300 E-3-4)-(1)- , , 半固定性ブリッジは、固定性ブリッジの支台装置の一方を固定性に、他の一方に可動性連結装置を施したもので、その部が関節性の連結となるため、ブリッジに咬合圧などの外力が加わった場合、両支台歯にある程度の制限は受けるものの、その連結部を境として、個々の生理的運動がわずかに許容されるものである。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.80-P.81 E-3-4)-(1)- ブリッジの支台装置、又はボンティックと支台装置との間の連結部を可撤性機構にすることによって、ブリッジ全体又はボンティックのみを可撤可能にしたブリッジである。適応症・禁忌症、臨床的意義、さらに、アタッチメント等について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.81-P.82 E-3-4)-(1)-	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
22	接着技法 1．接着剤と接着機構 A．接着性レジンによる接着の概要 B．接着性レジンの接着機構 2．接着ブリッジ A．概要 B．特徴 C．適応症 D．禁忌症 E．リテーナーのデザイン F．メタルフレームと被着面処理 a．使用合金の要件 b．被着面処理 G．表面処理と接着操作 H．接着スプリント I．術後管理 その他のクラウンブリッジ	接着技法は接着性レジンが開発されてから、急速に発展してきた。その接着力の発現及び結合様式について、理解する。また、接着ブリッジの応用、適応症、禁忌症なども重要である。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.74、P.301-P.312 E-3-4)-(1)- , , これまで、硬質レジンブリッジの臨床では、金属の構造体に前装して応用されてきた。近年、審美性及び金属アレルギーの観点からメタルフリーブリッジの研究開発が求められるようになった。本項では自動車のバンパーや釣り竿等に実用化されている（繊維）補強のプラスチックと同様に、ファイバーにて硬質レジンの機械的性質を向上させ、硬質レジンブリッジを実用化するための構造とそのファイバーの性質について理解する。 F. G. Pとは、Functionally Generated Path Techniqueの略で、機能的咬頭路記録法である。有歯顎補綴方法を考究するうえでF. G. Pの概略を理解す	舞田 健夫

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	1. ファイバー補強による補綴修復 A. 臨床的意義 B. 適応症 C. ファイバーの種類と性質 D. 製作法 2. FGPテクニック A. 臨床的意義 B. 適応症 C. 術式	ることは重要である。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.218 E-3-4)-(1)- , , ,	
23	橋義歯補綴学中間試験	1～7回までの講義内容について試験を実施する。試験時間は70分、満点は100点で評価する。	越智 守生 舞田 健夫 広瀬 由紀人 仲西 康裕
24	インプラント補綴（総論） A. 定義と意義 B. 構成 C. 特徴 D. 材料と種類 E. 予後に影響する因子	科学の進歩に伴って、歯科医療においても高度化の傾向にある。インプラント（implant）とは、植えつけるとの意味があり、人工的な歯根部を歯の欠如した歯槽骨や顎骨の骨面又は骨内に植立することである。その特徴、材料と種類、予後に影響する因子について、その総論を理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.313-P.325 E-3-4)-(3)- , , ,	白井 伸一 柳 智哉
25	インプラント補綴（各論） A. 定義と意義 B. 構成 C. 特徴 D. 材料と種類 E. 予後に影響する因子	インプラント補綴の特徴、材料と種類、予後に影響する因子について、更に詳しく各論を学ぶ。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.313-P.325 E-3-4)-(3)- , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
26	診察と診断と感染予防 1. 医療面接と診察 2. 検査 3. 評価と診断 4. 感染予防 治療計画を左右する因子 顎機能障害患者におけるクラウンブリッジ補綴 歯周疾患に罹患した歯列のクラウンブリッジ	診察と診断と感染予防について、更に詳しく学ぶ。すなわち、プロブレムリストの作成について、各種検査の意義と内容、感染予防の基本的考え方と補綴歯科治療における対策などを説明できる。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.38-P.52 E-3-4)-(1)- , , , , , 治療計画を左右する因子について、更に詳しく学ぶ。すなわち、クラウンブリッジの失敗の原因、補綴装置の寿命を縮めるリスク因子及び治療計画左右する因子をあげることができる。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.53-P.59 E-3-4)-(1)- , , 顎機能障害の病態を理解し、検査法を説明することができる。また、咬合治療の位置づけについて説明することができる。 歯周疾患に罹患した歯列のクラウンブリッジ治療について、さらに、理解を深める。	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
27	口腔内情報の記録 インフォームドコンセント	口腔内情報の記録について、更に詳しく学ぶ。すなわち、色調の選択と伝達方法を説明できる。歯の位置及び形態の記録法を説明できる。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.162-P.170 E-3-4)-(1)- , , インフォームドコンセントについて、更に理解を	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	<p>部分床義歯補綴の概要と意義</p> <p>補綴装置の装着後に発生する問題と対応</p>	<p>深める。すなわち、基本的な考え方、成立要件などを説明できる。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.99-P.103 E-3-4)-(1)</p> <p>部分床義歯補綴の歯科補綴学上の位置づけを理解する。 E-3-4)-(2)- , , , ,</p> <p>クラウンブリッジの装着後に発生する問題とその対応について、これまでの講義内容を復習し、更に詳しく学ぶ。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.245-P.253 E-3-4)-(1)- ,</p>	
28	<p>クラウンブリッジの経過 高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ補綴</p>	<p>クラウンブリッジの予後を調べる研究の種類をあげることができる。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.8-P.17 E-3-4)-(1)- ,</p> <p>高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ治療について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.328-P.334</p>	越智 守生
29	修復物の機械切削による加工法	<p>CAD/CAMにて製作した修復物の特徴と修復法を理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」P.212-P.217 E-3-4)-(1)- 、 、</p>	疋田 一洋
30	<p>橋義歯補綴学 中間試験追・再試験</p>	<p>橋義歯補綴学中間試験未受験ならびに不合格者に対して追再試験を実施する。試験時間は70分、満点は100点で評価する。</p>	<p>越智 守生 舞田 健夫 広瀬 由紀人 仲西 康裕</p>

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

歯冠補綴学（前期）

[歯冠補綴学（講義）評価方法] 歯冠補綴学中間試験（50%）と歯冠補綴学定期試験（50%）

- ・ 中間試験と定期試験の合計点を2で除した平均が60%以上で合格と判定する。
- ・ [歯冠補綴学（実習）評価方法] 実習の項目を参照

[判定方法] 講義と実習を同等に評価し、それぞれが60点以上を合格とする。

橋義歯補綴学（後期）

[橋義歯補綴学（講義）評価方法] 橋義歯補綴学中間試験（50%）、橋義歯補綴学定期試験（50%）

- ・ 中間試験と定期試験の評価の合計点が60%以上で合格と判定する。
- ・ [橋義歯補綴学（実習）評価方法] 実習の項目を参照

[判定方法] 講義と実習を同等に評価し、それぞれが60%以上を合格とする。

固定性補綴学としての通年評価

前期と後期を同等に扱い、60点以上を合格とする。

【教科書】

「クラウンブリッジ補綴学」第6版 矢谷 博文 ほか 編 医歯薬出版

【参考書】

「第4版 冠橋義歯補綴学テキスト」越智 守生 ほか 編 永末書店

【学修の準備】

受講する前に各学習項目の授業範囲を指定した教科書で予習し、理解できない部分を抽出しておく（30分）。

授業の最初に前回講義内容に係る小テストを実施することがあるので復習をしておく（30分）。

小テストは実施後に解説を行う。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している（専門的実践能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯冠補綴学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保険・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために、高齢者への対応法を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

【実務経験】

《歯科医師》越智守生、舞田健夫、疋田一洋、広瀬由紀人、仲西康裕、白井伸一、柳 智哉

【実務経験を活かした教育内容】

歯冠補綴学ならびに橋義歯補綴学は、少数歯欠損により低下した機能と外観の回復を図るとともに、咀嚼系の異常を予防する理論と技術を研究する学問で、歯学としては重要な臨床学科である。したがって、学理に則った教育内容と歯学全般にわたる幅広い知識に立脚した臨床実務を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。さらに、チュートリアル講義を通して問題解決能力を学生に身に付けさせる。